

大阪府郡部小學兒童ノ「ツベルクリン」皮内反應成績

大阪府泉南郡樺井尋常高等小學校外二校校醫

伊 坂 春

内容目次

一、緒 言	(5)生活状態
二、實施方法並ニ判定標準	(6)保育状態
注射液稀釋度	(7)既往病歴
實施方法	(8)陽性兒ノ體重胸圍腹壁皮厚
副作用	(9)發育概評
判定標準	(10)榮養状態
經 過	(11)學科成績
三、成 績	(12)病氣缺席日數
(1)成績概要	四、小學兒童ノ體温並ニツ反應陽性兒トノ關係
(2)年齢及性	五、調査要旨
(3)家族感染ノ關係	六、主要文獻
(4)家庭職業	

一、緒 言

余ハ曩ニ居村ニ肺結核患者比較的多ク小學兒童特ニ在學中運動選手タリシモノガ卒業後肺結核ノ爲メニ斃ル、モノマ、アルニ鑑ミ學校長ト協議ノ上、大阪血清藥院製ビルケー氏皮刺反應液(舊「ツベルクリン」4倍稀釋液)ヲ使用シ如何ニ本校兒童ガ結核菌ノ侵襲ヲ受ケツ、アルカヲ調査セルニ事實ハ豫想ヲ裏切り陽性者極メテ少ナク僅カー5%ニ過ギズ特ニ1週間ノ間隔ヲ置キテ第2回ノ検査ヲ行ヒタルニ更ニ増加ヲ見ズ、依リテ余ガ技術ノ不熟練ニヨルカ或ハ他ニ原因ヲ求ム可キカ不明ナル旨ヲ日本學校衛生誌上ニ發表セリ。從ツテツ反應ガ當地ニ於テノミ低率ナルヤ否ヤヲ確證ス可ク昭和8年5月定期身體

検査ニ當リ學校長ト協議ノ上村當局者及保護者ノ承認ヲ得テ余ノ關係セル小學兒童 1123 名一ツキツ反應中最確實ナリト稱セラル、マントー氏「ツベルクリン」皮内反應ヲ試ミ是レガ統計的調査ヲ行ヒタルヲ以テ以下其ノ成績ノ大要ヲ發表シ識者ノ高教ヲ乞ハント欲スルモノナリ。實施校ハ共ニ大阪府泉南郡ニ屬シ大阪市ト和歌山市トノ中間ヨリ少シク南ニ偏セル海岸地ニシテ南海電車ニ沿ヒA村ハ戶數778、人口3803、B村ハ戶數348、人口2040、C村ハ戶數855、人口約4100ヲ有ス。而シテA村ハ工場地、B村ハ純農村、C村ハ大半農業ニシテ一部分ハ商、漁工業ヲ有スル村落ナリ。

二、實施方法並ニ判定標準

「ツベルクリン」反應検査方法トシテハ皮刺反應皮内反應、眼反應、軟膏塗擦法、皮下注射法内

服法等種々ノ方法アリ、最近佐藤鈴木氏法、齋藤氏法等發表セラレ各一長一短アルコトハ學者

ノ報告ニヨリテ明瞭ナリ、余ハ是等ノ方法中副作用比較ノ少ナク操作亦簡單ニシテ成績最も確實ナリト稱セラル、マントー氏「ツベルクリン」皮内反應ヲ選定セリ。

注射液ノ稀釋度ニツイテモ學者ニヨリテ一定セズ 100 倍、500 倍、1000 倍、2000 倍、5000 倍、10000 倍等用ヒラル、モ、余ハ東京帝大傳染病研究所製「ツベルクリン」ヲ滅菌生理的食鹽水ニテ 2000 倍ニ稀釋シ、其ノ 0.1 ヲ注射シ注射器ハ「ツベルクリン」注射用ノモノヲ使用シ注射針ハ太サ 5 分ノ 1「ミリ」長サ 0.8 ノ短針ヲ用ヒタリ。

注射方法ハ左前膊掌面ノ中央部ヲ選ビ、酒精ニテヨク消毒セル後注射針ヲ皮膚面ト併行ニ淺ク真皮内ニ刺入シ皮下ニ達セザル様充分注意ヲ拂ヒ針ノ尖端ガ完全ニ皮内ニ刺入セル場合藥液注入ニ際シ、必ズ局所ニ一種ノ抵抗ヲ感ジ、蒼白色ノ圓形ナル丘疹ヲ生ズ、抵抗ヲ感ゼザル場合ハ必ズ針ヲ少シク抜き更ニ丘疹ヲ生ズルガ如ク刺入セリ。

而シテ針ノ刺入ニ際シテハ兒童ハ案外平氣ナルモ藥液注入ニ當リ疼痛ヨリハ寧ロー種ノ灼熱感ヲ訴フルモノ多シ。本反應實施中 C 校尋常科女兒 1 名輕度ノ腦貧血ヲ起シタルモノアリシ外何等不快ナル副作用ヲ訴ヘズ、且注射後モ發熱等ノ爲メニ缺席セル兒童 3 校中 1 名ヲモ認メズ。

成績判定法、注射時ニ生ズル蒼白色ノ丘疹ハ暫時ニシテ消失スルモ反應陽性者ニアリテハ數時間ノ後局所ニ發赤腫脹ヲ來タシ時間ノ經過ト共ニ漸次増大シ 48 時間後ニハ最高度ニ達スルヲ以テ、余ハ 48 時間後ノ所見ニヨリテ判定セリ。而シテ判定ノ標準ニ至リテハ稀釋液ノ濃度ニヨリ又學者ニヨリテ異ナルモ、余ハ次ギノ如キ標準ニヨリ是レヲ決定セリ。

- (一) 全然局所ニ何等ノ變化ナキモノ。
- (±) 發赤浸潤ノ直徑 0.4 cm 以下ノモノ。
- (+) 直徑 0.5 cm ヨリ 1.0 cm ニ至ルモノ。
- (++) 直徑 1.0 cm ヨリ 2.0 cm ニ至ルモノ。
- (+++) 直徑 2.1 cm 以上ノモノ 又ハ局所ニ水泡ヲ形成セルモノ。

發赤浸潤ハ圓形ヲ呈フルモノアルモ多數ハ橢圓形ニシテ中央ハ浸潤ノ爲メ皮膚面ヨリ少シク隆起シ周圍ハ單ニ發赤セルモノ多シ。又中央ニ水泡ヲ形成セルモノモアリ、而シテ發赤浸潤ハ數日後漸次消退シ局所ニ輕度ノ色素沈著ヲ殘シテ消退スルヲ普通トス色素沈著ハ強陽性ニアリテハ久シキニワタリテ消失セザル場合多シ、又 A 校強陽性者中水泡ヨリ潰瘍ヲ生ジ長期間治癒セズ治療ヲ加ヘタルモノ 4 名 (21.05%) アリ、而シテ潰瘍ヲ生ジタル者ハ全部家族中ニ肺結核患者ヲ有スル兒童ナリシハ興味アル事實ナリ。

三、成 績

(1) 成績ノ概要

前記ノ方法ニ從ヒ「ツ」皮内反應ヲ検査セルモノ A 校男 268 名、女 205 名、B 校男 110 名、女 121

名、C 校男 204 名、女 215 名、合計男 582 名、女 541 名、總計 1123 名ニシテ、其ノ成績次ノ如シ。

「ツ」反應成績調査表

A 校

年齢	性別	検査人員	⊕	⊕⊕	⊕⊕⊕	計	百分比	⊕	⊖	計
			0.5—1.0cm	1.1—2.0cm	2.0cm以上			0.4cm以下		
7	男	48	1	4	0	5	10.42	0	43	43
	女	39	0	6	3	9	23.08	0	30	30
8	男	28	1	2	1	4	14.29	0	21	21
	女	30	3	5	1	9	30.00	0	21	21
9	男	40	3	7	0	10	25.00	0	30	30
	女	26	3	2	1	6	23.08	0	20	20

10	男女	36 20	1 0	8 9	0 0	9 9	25.00 45.00	0 0	27 11	27 11
	男女	42 34	0 1	6 6	0 4	6 11	14.29 22.35	1 0	35 23	36 23
12	男女	26 24	1 3	6 9	1 1	8 13	30.77 54.17	0 0	18 11	18 11
	男女	27 15	3 0	4 0	0 5	7 5	25.93 33.33	3 1	17 9	20 10
14	男女	21 17	3 4	7 3	2 0	12 7	57.17 41.18	1 0	8 10	9 10
	合計	268 205	13 14	44 40	4 15	61 69	22.76 33.66	5 1	202 135	207 136
總計		473	27	84	19	130	27.48	6	337	343

B 校

7	男女	18 16	0 0	2 0	0 1	2 1	11.11 6.88	0 0	16 15	16 15
	男女	14 20	1 1	1 3	0 0	2 4	14.29 20.00	0 0	12 16	12 16
9	男女	14 12	0 0	0 0	0 1	0 1	0 8.33	0 0	14 11	14 11
	男女	14 14	1 1	1 2	0 0	2 3	14.29 21.43	0 0	12 11	12 11
11	男女	18 13	0 0	2 2	0 0	2 2	11.11 15.38	0 0	16 11	16 11
	男女	7 19	0 1	0 1	1 0	1 2	14.29 10.53	0 0	6 17	6 17
13	男女	13 11	0 0	2 3	0 0	2 3	15.38 27.27	0 0	11 8	11 8
	男女	12 16	1 2	5 3	0 1	6 6	50.00 37.50	0 0	6 10	6 10
合計	男女	110 121	3 5	13 14	2 2	18 21	16.36 17.35	0 0	93 99	93 99
	總計	231	8	27	4	39	16.88	0	192	192

C 校

7	男女	28 31	0 0	1 0	1 1	2 2	7.14 6.45	0 0	26 28	26 28
	男女	44 42	0 0	1 2	1 3	2 5	4.55 11.90	0 0	42 37	42 37
9	男女	28 46	0 0	4 3	1 1	5 5	17.86 8.70	0 0	23 42	23 42
	男女	31 31	1 0	3 1	1 1	5 2	16.13 6.45	0 1	26 28	26 29
11	男女	21 26	0 1	2 1	2 1	4 3	19.05 11.54	0 0	17 23	17 23
	男女	28 29	0 0	1 2	0 4	1 6	3.57 20.68	0 0	27 23	27 23
13	男女	10 7	1 0	1 1	3 2	5 3	50.00 86	0 0	5 4	5 4
	男女	14 3	0 0	2 1	2 0	4 1	57 33	0 0	10 2	10 2
合計	男女	204 215	2 1	15 12	11 14	28 27	73 56	0 0	0 1	0 1
	總計	419	3	27	25	55	13.13	1	363	364

三 校 合 計

年齢	性別	検査人員	ツベルクリン皮内反應			計	百分比
			⊕ 0.5—1.0cm	⊕ 1.1—2.0cm	⊕ 2.0cm以上		
7	男	94	1	7	1	9	9.57
	女	86	0	6	5	11	12.56
8	男	86	2	4	2	8	9.30
	女	92	4	10	4	18	19.57
9	男	82	3	11	1	15	18.29
	女	84	3	5	3	11	13.10
10	男	81	3	12	1	16	19.75
	女	65	1	12	1	14	21.54
11	男	81	1	10	2	13	16.04
	女	73	2	9	5	16	21.92
12	男	61	1	7	2	10	16.39
	女	72	4	12	5	21	29.17
13	男	50	4	7	3	14	28.00
	女	33	0	4	7	11	33.33
14	男	47	4	14	4	22	46.81
	女	36	6	8	1	15	36.36
合計	男	582	18	72	17	107	18.38
	女	541	20	66	31	117	21.67
總計		1123	38	138	48	224	19.95

(註)年齢計算ハ學令ニヨリ7歳トハ滿6年1日ヨリ滿年迄ヲ云フ以下之レニ準ズ

上表ニ示スガ如ク、A校検査人員437名中陽性130名即チ27.4%、B校231名中39名16.88%、C校419名中27名即チ13.13%ニシテA校陽性者最高率ヲ示シC校最モ少ナシ、既ニ述ベタルガ如クA村ハ工場地ニシテ主トシテ紋羽ヲ製造シ全國生産額ノ約6割迄ハ當村ニ於テ産出シ、從ツテ大小23工場村内各所ニ散在シ、塵埃ノ飛散甚ダシク工場勞動モ亦多キ村落ナリ。B村ハ純農村ニシテ二三ノ工場ヲ有スルモ何レモ村外ニ在リ、但シ當村ニ於テモ農繁期以外附近工場ヘノ通勤者相當多シ、C村ハ三村中最モ大村ニシテ大半ハ農業ニ從事シ、殘餘ノ3割ハ商業、2割ハ漁業工業ナリ、而シテ村端ニ紋羽工場一、木綿工場一村外ニ紡績工場一ヲ有ス、從ツテA校ニ於テ陽性率最モ高キハ纖維工業ト重要ナル關係ヲ有スルモノナル可キヲ首肯シ得ラル、モC校ニ於テハA校ノ2分ノ1ノ陽性率ニ過ギザル理由ノ奈邊ニ存スルヤハ大ナル疑問トセザル可カラズC校ハ特ニ在籍兒童數ニ於テモ最モ多クA校ニ比シ百數十名多キニ拘ハラズ、保護者ノ了解ヲ得難ク實施ニ際シ數十名ノ未了者アリ、而モ教師ノ語ル處ニヨレバ其ノ多數ガ

肺結核ノ家族歴ヲ有シ、或ハ平素虛弱ナルモノ多シトコトナレバ或ハ是等ノ事實ガ低率ノ主要ナル役割ヲナシタルモノカ或ハ他ニ原因ヲ求ム可キカハ今後ノ研究ニ待タザル可カラズ。

而シテ三校合計男兒582名中陽107名18.34%、女兒541名中陽性117名21.63%、合計1123名中陽性224名即チ19.95%ヲ有ス。

余ハモトヨリ田舎ノ一開業醫ニシテ學校醫ヲ兼任セルモノ且大阪市ト相當遠距離ニ在ル關係上詳細ナル文獻ヲ調査スルコト困難ナルガ余ノ知レル範圍内ニ於テハ在來ノ報告ハ主トシテ都會兒童ニ就テ調査セラレ郡部兒童ニ於ケル報告ハ極メテ少數ニ過ギザルモノ、如シ。然モ都會ト村落トハ結核菌感染濃度ニ著シキ相違アルコトハ敢テ議論ノ要ナル可ク從ツテ都郡兒童ニ陽性率ノ著シキ相違アルコトハ理ノ當然ナル可シ然モ同一村落ニ於テモ亦都會ニ接續セル部分ト遠隔セル土地トニヨリテ又ハ其ノ土地ノ狀況ニヨリテモ高低ノ差アルコトモ想像ニ難カラザル可キヤ勿論ナリ。

在來ノ報告中特種兒童ノ分ヲ除キ都市及郡部ノモノヲ列舉スレバ左ノ如シ。

都 市	伊東氏福岡市(12歳)	48.6%	ビ ル ケ ー 氏 反 應
	酒井氏大阪市	45.6%	
	阪井、齋藤兩氏京都市	77.3%	
	高田氏富山市	30.7%	
	吉見、松田兩氏金澤市	41.4%	
	鎌目外 2 氏東京市	第 1 回 25.3% 第 2 回 43.4%	マ ン ト ー 氏 反 應
	野村氏同上	36.24%	
	岩崎氏大阪市	43.1%	
	高橋氏外氏名古屋市	26.64%	
	瀨脇氏東京市外	17.1%	
郡 部	阪井氏島根山口兩縣村落	32.1%	ビ ル ケ ー 氏 反 應
	鈴木氏静岡縣村落	24.6%	
	百崎氏佐賀市附近農村	20.1%	
	井上東氏入幡市外某村	24.8%	

余ノ成績 19.95%ヲ上記郡部ノモノト比較スルトキハ瀨脇氏ノ 17.1%ヲ除キ、他ハ悉ク高率ナリ唯百崎氏ノ佐賀市附近ノソレニ極メテ類似セルノミ。

栗山氏ハ爾來報告セラレタルモノヲ綜合シ(尙後學士調査)26355名中陽性 35.1%内人口 10 萬以上ノ都市兒童 18816名中陽性 39.1% 10 萬以下ノ都市村落兒童 7535名中陽性 25.1%ナリト云フ、余ノ例ヲ後者ト比較スレバ 5%低率ナリ、岩崎氏ノ大阪市兒童 43.1%ト比較スル時ハ實ニ 23%以上ノ差ヲ示セリ。是レニヨリテ余ノ 19.95%ナルモノハ恐ラク實際ニ於テハ尙少數ノ増加率ヲ見ルナランモ少ナクモ郡部殊ニ大都會ヨリ遠隔セル地方ニ在リテハ都會及所謂接續町村ノ兒童ヨリモ結核菌ノ感染率が少數ナルコトヲ想像シ得ルニ足ル可シ、而シテ A 校ノ 27.48%ハ栗山氏ノ 25.1%ハ勿論高橋氏等ノ名古屋市ノ 26.64%ヨリモ尙高率ヲ示シ余ガ曩ニ緒言ニ於テ述ベタルビルケー氏反應ノ低率ナリシコトハ全然誤リニシテ是レガ原因ハ不明ナルモ「ツベルクリン」ノ稀釋度ニヨルモノカ或ハ沼田成美氏ノ云ハル、ガ如ク製造所ノ相違モ亦其一因ヲナスモノニアラザルカ、而シテ A 校ノ高率ナル理由ハ既ニ述ベタルガ如ク纖維工業ト重大ナル關係ヲ有スルモノト考ヘザル可カラズ。

(2) 年齢及性

(1) 年 齡

人體ハ生後間モナク結核菌ノ感染ヲ受ケ年齢ノ増加スルニ從ヒ次第ニ其ノ數ヲ増スコトハ「ツ」反應成績、又ハ病理解剖上既ニ證明セラル、所ナリ、栗山博士ニヨレバ吉田博士ガ生後 6 日迄ノ初生兒 90 名ニビルケー氏反應ヲ試ミタルニ陽性者 1 名モナク、其ノ母親 62 名ニツキ同時ニ行ヒタル反應ハ 72%ノ陽性率ヲ示セリト云ヒ、尙同博士ハ在來ノ報告ヲ綜合シテ 0 歳乃至 1 歳ノ 5.0%ニ對シ 6 歳乃至 7 歳ノ 28.6% 14 歳乃至 15 歳ノ 41.4%ノ陽性率ヲ示スト云ヘリ、野村氏ハ 7 歳ノ 25.49%ニ對シ 14 歳ノ 57.77%、岩崎氏ハ 7 歳男 28.2%、12 歳男 43.5%、女兒 7 歳 27.0%、12 歳 42.5%ナリト云ヒ、何レモ年齢ノ増加ニ從ヒ遞増スルコトヲ示セリ、余ノ場合ニ於テモ同様ノ成績ヲ示シ 7 歳ノ 11.11%ニ對シ 14 歳ノ 44.58%ヲ示シ、其ノ間多少ノ増減アルモ年齢ノ進ムニ從ヒ漸次増加ノ傾向アルコトヲ示セリ。

(ロ) 性 別

最近ノ大阪府統計ノ示ス所ニヨレバ年度ニヨリ

死亡者千人ニ對スル肺結核死亡數

年 度	男	女	年 度	男	女
大正14年	15.22	14.37	昭和4年	90.03	91.89
昭和元年	84.09	88.30	同 5年	98.17	100.78
同 2年	88.96	89.92	同 6年	93.55	93.73
同 3年	93.95	97.76	同 7年	100.02	64.61

泉南郡肺結核死亡者數

年 度	男	女	年 度	男	女
大正14年	92	136	昭和4年	105	134
昭和元年	77	147	同 5年	124	137
同 2年	89	126	同 6年	96	147
同 3年	109	138	同 7年	98	116

多少ノ増減アルモ肺結核死亡者ハ女子ガ大體高率ヲ示シ、我泉南郡ニ於テモ女子ノ死亡數ガ男子ヨリモ遙カニ多キコトヲ示セリ。

而シテ「ツ」反應ニ於テハ在來ノ報告ガ男女同率ナリト云ヒ、或ハ男兒ニ多ク又ハ女兒ニ多シト

ナスモ大體ニ於テ女兒高率ナルガ如ク、古クハ伊東博士ノ男兒 47.2%ニ對シ女兒 50.5%、近クハ西川氏ノ長崎師範附屬小學校ニ於テ調査セルモノモ女兒高率ナリト云ヒ、西堀、賀川兩氏モ大連市及附近小學校虛弱兒ニツキ男 28.9%、女 35.6%、吉見、松田兩氏ノ金澤市男 36.4%、女 46.3%、岩崎氏ノ大阪市男 56.5%、女 57.5%ヲ示セリ。高橋氏等ノ名古屋市ニ於ケルモノハ男女略々同ナルモ野村氏ノ東京市ニ於ケルモノハ女兒 35.6%ニ對シ男兒 36.92%ニシテ男兒稍々高率ヲ示セリ。

余ノ調査ニ於テハ A 校男兒 22.76%、女兒 33.66%、B 校男兒 16.37%、女兒 17.35%ニシテ女兒高率ナルニ關ハラズ、獨リ C 校ノミハ男兒 13.75%ニ對シ女兒 12.56%ヲ示シ女兒少シク低率ナリ。而シテ 3 校全體ヲ通ジテハ女兒高率ニシテ男兒 18.38%ニ對シ女兒 21.63%ヲ示セリ。是等ノ事實ハ女子ノ肺結核死亡者ガ男子ヨリモ多キコトヲ裏書キスルモノト云ハザル可カラズ、而シテ強陽性者モ亦男兒 29.2%ニ對シ女兒 57.3%ノ高率ヲ示セリ。

(3) 家族感染

同居者中ニ結核患者ヲ有スルコトハ結核菌感染ニ對シ好機會ヲ與フルコトハ云フ迄モナク從ツ

テ「ツ」反應陽性者ト家族歴トノ關係ヲ調査スルコトハ結核豫防上最モ重要ナル問題ト云ハザル可カラズ鈴木氏ハ陽性者ノ約半数ニ於テ百崎氏ハ 20.3%ニ於テ家族感染ヲ證明セリト云フ、余モ亦此ノ關係ヲ調査セントセルガ實際ニ於テ正確ナル回答ヲ得ルコトハ極メテ困難ニ屬シ吾等日常患者ヲ診療スルニ當ツテサヘモ尙且結核ニ關スル家族歴ハ秘シテ以テ明答ヲ與ヘズ況ヤカ、ル調査ニ際シテ一層困難ヲ感ズルハ當然ナリ。從ツテ本調査ハ不確實ナルコトヲ免レ難キモ余ノ診療範圍内ニ於テ竝ニ一部保護者ノ回答ニヨリテ次ギノ如キ成績ヲ得タリ。

A 校陽性者 130 名中 33 名 25.48%

B 校同 39 名中 7 名 17.6%

C 校同 55 名中 8 名 14.5%

即チ陽性者 224 名中 48 名 21.42%ノ家族感染ヲ證明シ得タリ然シナガラ此ノ數字ハ必ズシモ正確ナルモノトハ云ヒ難キモ唯 A 校ノ 25.4%ノミハ殆ンド眞ニ近キコトハ余ノ診療上ノ觀察ニヨリテ明カナリ。

(4) 家庭ノ職業

百崎氏ノ調査ニヨルトキハ陽性率ハ勞働者最多ク 42.9%ニシテ次ギハ接客業者 40.0%、次イデ無職業農工官公吏會社員醫師ノ順ニシテ教師

「ツ」反應陽性兒家庭職業調査表

職 業 別	A 校 (130)		B 校 (39)		C 校 (55)		合 計 (224)	
	人 員	百分比	人 員	百分比	人 員	百分比	人 員	百分比
農 業	21	16.15	20	51.28	11	20.00	52	23.31
工 業	59	45.38	12	30.77	23	41.82	94	41.96
交 通 業	11	8.46	2	5.13	9	16.36	22	9.82
商 業	21	16.15	2	5.13	8	14.54	31	12.84
公務自由業	13	10.00	0	0	1	1.82	14	6.23
無 職	5	3.85	3	7.69	2	3.64	10	4.46
水 産 業	0	0	0	0	1	1.82	1	0.45

(註)職業別ハ昭和六年改正内閣訓令第二號職業分類表ニヨル、工業ハ大部分紡織工業ニ從事スル者、商業ハ接客業者ヲ含ミ、公務自由業ハ官公吏、教師、僧侶、醫師ヲ含ム

最モ少ナク 9.5%ナリ。余ノ調査ニヨレバ工業最モ多數ヲ占メ 41.96%ヲ示シ農業商業公務自由業無職業水産業ノ順序

ニ次第ニ減少ス。元來職業の影響ハ土地ノ狀況ニヨリテ大ナル相違アル可ク工場地ナル、A 村ニテハ工業 45.38%ヲ示スニ對シ純農村タル B

村ニ於テハ其ノ半數以上 51.28%ハ農家ノ子女ナリ、而シテ三村共紡織工業ニ從事スルモノ多キ關係上工業ガ最多數ヲ占ムルコトハ當然ナリ。

(5)生活狀態

個人ノ社會的地位貧富住居等ハ結核ト重要ナル關係アルコトハ勿論ニシテ結核ハ一ニ貧民病トサヘ稱ヘラル、從ツテ家庭ノ狀況ヲ仔細ニ調査シ兩者ノ關係ヲ觀察スルコトハ實ニ意義アルコト、云ハザル可カラズ、今教師ノ家庭訪問ニ際シ或ハ余ノ日常往診ニ際シ居住服裝其他吾等ノ眼ニ映ジタル家庭ノ狀況ニヨリ假ニ生活狀態ヲ上中下ノ三階級ニ區分シ「ツ」反應陽性兒トノ關係ヲ調査セルニ次ギノ如キ成績ヲ得タリ。

陽性者家庭生活狀況調査表

學校名	上	中	下	計
A校	8	89	33	130
B校	1	34	4	39
C校	1	23	31	55
合計	10	146	68	224
百分比	4.47	65.63	30.35	

陽性者ハ中流以下ノ家庭ノ子女ニ多キコトヲ示セリ、然シナガラ何レノ村落ニ於テモ所謂上流家庭ナルモノガ比較ノ少數ニシテ、中流以下ノ家庭ガ多數ヲ占ムルコトモ亦顧慮ニ入レザルベ

カラザルコトハ勿論ナリ。

(6)保育狀況

出生後ノ保育狀況、即チ母乳榮養人工榮養混合榮養等ノ如何ニヨリ反應陽性兒トノ間ニ如何ナル影響アルヤヲ調査セルモ陽性兒ト陰性兒トノ間ニ何等ノ等差ヲ認ムルコト能ハズ陽性者ノ殆ンド全部ガ母乳榮養ニシテ工場労働者ノ一部カ勤務中往々牛乳練乳、又ハ重湯等ヲ與フルコトアルニ過ギズ、從ツテ哺乳狀況トハ余ノ場合ニ於テハ全然關係ヲ認ムルコト能ハズ。

(7)既往病歴

種々ノ疾病就中麻疹、百日咳、流行性感冒等ハ結核ニ對スル抵抗力ヲ低下セシメ、其ノ感染率ヲ大ナラシムルコトハ學者ニヨリテ證明セラル、所ナリ、然ルニ「ツ」反應陽性兒ノ既往病歴ヲ調査セルニ麻疹、百日咳、中耳炎、肺炎、消化不良症等ヲ經過セルモノ大部分ヲ占ムルト雖、陰性者モ亦同様ニシテ兩者ノ間ニ格段ノ差異ヲ發見スルコト能ハズ。

(8)「ツ」反應陽性兒ノ體重胸圍腹壁皮厚

體育研究所吉田幸信博士著生徒兒童體力標準表ニヨリ平均值、以上、以下ノ三階級ニ區分シ調査セル成績次表ノ如シ。

而シテ體重胸圍ハ文部省身體檢查規則ニヨリ腹壁皮厚ハ吉田博士著者ニ準ジ測定セルモノナリ

「ツ」反應陽性兒體重胸圍腹壁皮厚調査表

		體 重			胸 圍			腹 壁 皮 厚		
		㉞	㊲	㊳	㉞	㊲	㊳	㉞	㊲	㊳
A校	男女計	0	37	21	0	19	39	8	16	34
	男	2	50	17	1	32	36	8	36	25
	女	2	87	38	1	51	75	16	52	59
B校	男女計	1	14	3	1	14	13	1	15	2
	男	1	8	12	1	3	17	1	16	4
	女	2	22	15	2	7	30	2	31	6
C校	男女計	0	16	10	0	13	13	1	19	6
	男	0	14	10	0	7	17	2	12	10
	女	0	30	20	0	20	30	3	31	16
合 計	男	1	67	34	1	36	65	10	50	42
	%	66.66		33.33	36.27		63.75	58.82		41.15
	女	3	72	39	2	42	70	11	64	39
計	%	65.78		34.21	38.59		61.40	65.80		34.20

(註)㉞、㊲、㊳ハ吉田博士標準表ニヨリ平均值、平均值以上、平均值以下ヲ示ス、測定時缺席者數名アリ

測定時間ハ學習ノ都合ニヨリ午後 2 時ヨリ午後 4 時迄ノ間ニ於テ實施セリ。

(イ) 體重ハ平均値以上ノモノ最モ多ク、男兒 66.66%ヲ占メ、女兒モ亦同様 65.78%ヲ有シ平均値以下ノモノ男 33.33%ニシテ女 34.21%ナリ、即チ吉田博士ノ身長別體重標準表ニヨルトキハ男女共平均値以上ノモノ多數ヲ占ム、而シテ男兒ハ女兒ニ比シ其ノ數多シ。

(ロ) 腹壁皮厚モ亦體重ト同様平均値以上ノモノ多シ、但シ體重ノ場合ト異ナリ女兒ノ方男兒ヨリモ多シ。

(ハ) 胸圍ハ一般ニ前二者ト異ナリ平均値以上ノモノ男兒 36.27%、女兒 38.59%ニ對シ平均値以下ノモノ男兒 63.73%、女兒 61.40%ナリ、即チ胸圍ハ平均値以下ノモノ多數ヲ占ムルコトハ興味アル事實ト云ハザルベカラズ、高橋氏等ハ名古屋市小學兒童ニ就キ身長體重胸圍ヲ測定シ「ツ」反應陽性者トノ關係ヲ調査シ結核感染ト夫等トノ間ニハ興味アル關係ヲ見出シ難シト云ヘルガ余ノ場合ニ於テハ一々陰性者トノ比較研究ニヨラズ吉田博士ノ標準ニヨレルモノナレドモ少ナクトモ體重ト陽性者トノ間ニハ何等ノ關係ナキ結論ヲ得タリ唯男女共陽性者ニ狭胸者多キコトハ見逃シ難キ事實ナリ。

(9) 發育ノ概評

文部省身體檢查規定ニヨリ調査セル成績次ノ如

「ツ」反應陽性兒發育概評調査表

		甲	乙	丙
A校	男	13	32	13
	女	26	37	6
計		39	69	19
B校	男	1	13	4
	女	2	14	5
計		3	27	9
C校	男	5	15	6
	女	8	13	3
計		13	28	9
合	男	19	60	23
	%	18.63	54.90	22.55
計	女	36	64	14
	%	31.58	56.14	12.28
男女計	員數	55	124	37
	%	25.75	57.41	17.22

シ。

陽性者ノ發育概評ハ男女共乙最モ多ク、甲之レ一次ギ丙最モ少ナシ、而シテ女兒ハ男兒ヨリモ發育良好ナルモノ多シ百崎氏モ亦同様ノ成績ニシテ高橋氏等ハ發育概評ハ何等結核ノ標準トナラズト云ヘルガ余ノ場合ニ於テモ亦「ツ」反應陽性兒必ズシモ發育不良兒ト認ムルコト能ハズ、寧ロ發育良好ナル者ノ方多キ結果ヲ見タリ。

(10) 榮養狀態

文部省身體檢查規定ニヨルトキハ榮養判定ハ發育概評ト異ナリ一定ノ規準ヲ示サズ單ニ校醫ノ主觀的判定ニ一任セルヲ以テ、其ノ判定ハ必ズシモ正確ナリト云フ可カラズ、同一校醫ガ同一兒童ヲ決定スル場合ニ於テモ時ト場所トニヨリテ常ニ一致シ難キコトハ一般ニ認ムル所ナリ。從ツテ一定ノ規準ニヨリテ是レヲ決定ス可キ要アルモ從來ノ方法ハ多種多様ニシテ一長一短ヲ免レズ故ニ現身體檢查規定ニヨリ身長體重ヲ測定セルヲ以テ坐高ニカユルニ身長ノ二分ノ一ヲ以テセルピルケー氏ノ變法鶴見中橋氏法

$$\frac{\sqrt[3]{\text{體重gr} \times 10}}{1/2 \text{身長}} \times 100$$

ヲ適用シテ兒童ノ榮養狀態ヲ判定シ甲乙丙ノ三階級ニ區分シテ調査ヲ行ヘリ。

「ツ」反應陽性兒榮養狀態調査

		甲 (100以上)	乙 (99-97)	丙 (96以下)
A校	男	12	36	10
	女	34	30	5
計		46	66	15
B校	男	8	10	0
	女	5	8	8
計		13	18	8
C校	男	10	11	5
	女	8	7	9
計		18	18	14
合	男	30	57	15
	%	29.45	55.88	14.71
計	女	47	75	22
	%	41.23	39.47	19.30
總計	員數	77	102	37
	%	35.65	47.22	17.13

陽性者ノ榮養狀態ハ男兒ニ在リテハ乙最モ多ク 55.88%ニシテ丙最モ少ナク 14.71%ニ過ギズ

然ルニ女兒ニ於テハ榮養良好ナルモノ多ク、甲41.23%ニシテ丙19.30%ニ過ギズ、男女全體ノ成績モ甲35.65%、乙47.22%ニシテ、丙僅カニ17.17%ニ過ギズ、野村氏及高橋氏等モ陰性者トノ間ニ特ニ擧グベキ差異ナキ旨ヲ報告セルガ余ノ場合ニ於テモ「ツ」反應陽性兒ハ必ズシモ榮養不良兒ニ非ズシテ、寧ロ佳良ナルモノ多キコトハ前記腹壁皮厚ニテモ明瞭ナルガ如ク從ツテ榮養状態ノミデハ發育概評ト同様結核感染ノ標準トナスコト能ハズ。

(11) 學科成績

古來肺結核初期ニハ頭腦明瞭トナル可キ旨稱ヘラル。

「ツ」反應陽性兒ノ第一學期間ノ成績如何ヲ調査セリ、甲ハ9點乃至10點、乙ハ7點、8點、丙ハ5點、6點、丁ハ4點以下トス陽性者ノ學科成績ハ男女共乙最モ多ク丙甲丁ノ順ニ減少ス、

「ツ」反應陽性兒學科成績調査表

		甲	乙	丙	丁
A校	男	7	31	21	2
	女計	14	40	10	4
		21	71	31	6
B校	男	2	8	5	2
	女計	5	13	2	1
		8	21	7	3
C校	男	6	12	12	0
	女計	5	9	13	0
		11	21	23	0
合	男	16	51	36	4
	%	14.95	47.66	33.64	3.74
	女	24	62	25	5
	%	20.69	53.47	21.55	4.31
總計	員數	40	113	61	9
	%	17.48	50.67	27.35	4.04

而シテ陽性者中女兒ハ乙以上ノ成績者男兒ヨリモ多ク丙以下ノ成績不良者モ亦女兒ニ少ナシ尙學級中ニ於ケル成績席次ヲ調査セルニ

席次別	席次								9	10以下	20以下	30以下	1番ヨリ9番迄	百分比	20番以下	百分比
	1番	2	3	4	5	6	7	8								
男	4人	7	4	5	5	1	3	4	7	36	17	14	40人	37.38	31人	28.97
女	6人	7	4	4	8	6	3	7	5	35	21	10	50人	43.10	31人	26.72

席次1番ヨリ9番迄男兒40人37.38人%ニ對シ女兒50人43.1%ニシテ20番以下男兒28.97%、女兒26.72%ナリ。

陰性者ノ成績ト一々比較研究セルモノニアラザルモ平均點數及席次ノ數量ヨリ考察スルニ「ツ」反應陽性兒必ズシモ頭腦明瞭ナルモノノミニアラズ成績普通以下ノ兒童ガ寧ロ多キ現象ヲ示セ

リ。

(12) 病氣缺席日數

病缺日數ニ就テ調査セルニ陽性兒ト陰性兒トノ間ニ何等差異ヲ認メズ從ツテ統計的調査省略セリ。要スルニ陽性兒カナラズシモ病弱兒童ニ非ラザルコト明カナリ。

四、學童ノ體溫竝ニ「ツ」反應陽性者トノ關係

日々健康上何等ノ支障ナク通學セル小學兒童中多數ノ微熱保有者アルコトガ發見セラレ所謂學童ノ有熱問題トシテ近時學校衛生上重要ナル研究項目トナレリ、而シテ是レガ原因ニ就キ「ツ」反應ニヨリ又ハ「レ」線診斷ニヨリ研究セラレツツアリト雖、未ダ此ノ問題ノ全部ヲ解決セルモノトハ認メ難ク文部省ニ於テモ全國的ニ調査ノ步ヲ進メ根本的解決ヲ試ミントスル計畫アリト聞ク誠ニ喜バシキコトナリ。

學童ノ有熱問題ニ關シテハ最近多數ノ報告ヲ見ルモ其ノ多クハ都會ヲ中心トシテノ研究ニシテ村落ニ於ケル調査ハ僅少ニ過ギザルノ恨ミアリ余ハ村落兒童ニ於テモ都市同様微熱ヲ有スルモノ相當存在スルヤ否ヤ、又「ツ」反應陽性者トノ關係ニ就キ調査セント欲シ、昭和8年5月「ツ」反應實施後約10日餘ヲ經過シA、B、C三校兒童全般ニツキ體溫ヲ測定シ、更ニA校ニ於テハ3日間持續的ニ檢溫セリ。固ヨリ村落ノコト

故經費其他ノ關係上學校看護婦ヲ有スルニ非ラズ、余モ亦開業多忙ナル身ヲ以テ自ラ一々檢温ニ從フコト能ハズ、學校職員諸君ノ好意ニ依頼シ測定ヲ委ネタルヲ以テ吉田博士ノ警告セラルルガ如キ最善ノ方法ヲ採用セルモノニアラズ。檢温器ハ「丹製平形病院専用」モノヲ使用シ、檢温時間ハ午前 10 時ヨリ正午迄ノ間ニ於テ過激ナル運動後ヲ避ケ、ナルベク自習時間中ニ約 10 分間宛測定スルコト、シテ昭和 8 年 6 月ヨリ 7 月末迄ニ終了セリ、測定時ニハ教師諸君ニ依頼シ腋窩ヲ充分清拭シ水銀部ヲ正シク腋窩ニ密著シ上膊ヲ驅幹ニ接著セシメ、且水銀部ガ腋窩外ニ脱出セザル様注意セリ、但シ吉田博士ノ云ハル、ガ如ク二次三次ノ檢査ヲ省略セリ。別表ニ示スガ如ク、單ニ 1 回ノ檢温ノミテ 37 度以上ノ體温ヲ有スルモノガ相當多數ニ存在セ

リ。吉田博士ハ「ノルム」體重兒童ニツキ 37 度 1 分以上ヲ有スルモノ第三次檢温後男兒 74.6 %、女兒 61.8 %ヲ示セリト云ヒ、從來ノ報告ニ比較シテ著シク高率ヲ示セルガ余ノ場合ニ於テモ 37 度以上ヲ示スモノ男兒 631 名中 261 名 41.36 %、女兒 544 名中 228 名 41.91 %ノ高率ヲ示シ、唯單ニ 1 回 10 分間ノ檢温ニシテ斯クノ如シ若シ吉田博士ノ方法ニ從ヒ第二次、第三次的ニ檢温スルナラバ、更ニ一層多數ノ微熱兒童ヲ發見スルニ難カラザル可シ、而シテ兒童ノ體温ハ「ツ」反應ノ如ク年齢ノ進ムニ從ヒ遞増スルコト無ク 37 度以上ヲ示スモノ下級生ニ多く、上級生ニ少ナシ、而シテ男女ノ間ハ著シク差異ヲ認メズ。次ギニ A 校ニ於ケル 3 日間連續測定成績ハ次表ノ如シ。

有熱兒童調査表(1回)

年 齡	性 別	A 校			B 校			C 校			三 校 合 計				
		測定人員	37°C 以上	37°C 以下	測定人員	37°C 以上	37°C 以下	測定人員	37°C 以上	37°C 以下	測定人員	37°C 以上	百分比	37°C 以下	百分比
7	男	47	21	26	17	4	13	41	24	17	105	49	46.67	56	53.33
	女	35	22	13	16	6	10	36	22	14	87	50	57.47	37	42.54
8	男	28	14	14	14	3	11	47	37	10	89	54	60.67	35	39.33
	女	28	7	21	20	3	17	44	27	17	92	37	40.22	55	59.78
9	男	39	24	15	15	3	12	34	24	10	88	51	57.95	37	40.05
	女	25	18	7	11	1	10	48	33	15	84	52	61.90	32	38.10
10	男	36	17	19	14	0	14	38	24	14	88	41	46.59	47	53.64
	女	20	17	3	14	2	12	36	13	22	70	32	45.71	37	52.86
11	男	41	23	18	18	4	14	29	13	16	88	40	45.45	48	54.55
	女	33	12	21	13	5	8	32	16	16	78	33	42.31	45	57.69
12	男	25	7	18	7	0	7	27	3	24	59	10	16.95	49	83.05
	女	20	3	17	19	0	19	29	5	24	68	8	11.76	60	88.24
13	男	26	4	22	13	2	11	27	2	25	66	8	12.12	58	87.88
	女	14	2	12	9	5	4	10	0	10	33	7	21.21	26	78.79
14	男	20	0	20	12	6	6	16	2	14	48	8	16.67	40	83.33
	女	13	0	13	16	8	8	3	1	2	32	9	28.12	23	71.88
計	男	262	110	152	110	22	88	259	129	130	631	261	41.36	370	58.65
	女	188	81	107	118	30	88	238	117	121	544	228	41.91	316	58.09
總計											1175	487	41.62	686	58.38

(註) 38度以上ヲ有シ感冒其他明瞭ニ症狀ヲ發見セルモノヲ除外セリ

同 上(三日連續測定 A 校)

年 齡	性 別	測定人員	3 日間 37°C 以下	百分比	37°C 以上				
					1 回	2 回	3 回	計	百分比
7	男	47	26	55.32	10	7	4	21	44.68
	女	37	14	37.84	11	7	5	23	62.16

8	男女	26 30	13 25	50.00 83.33	9 3	1 1	9 1	13 5	50.00 16.67
	男女	40 25	9 12	22.50 48.00	11 8	12 3	8 2	31 13	77.50 52.00
10	男女	35 21	13 11	37.14 52.38	10 7	9 3	3 0	22 10	62.86 47.62
	男女	41 33	10 20	24.39 60.61	7 6	10 4	14 3	31 13	75.61 39.39
12	男女	24 23	19 20	79.17 86.96	4 1	0 1	1 1	5 3	20.83 13.04
	男女	24 13	8 12	33.33 92.31	10 0	4 1	2 0	16 1	66.67 7.69
14	男女	20 14	13 12	65.00 85.71	4 2	1 0	2 0	7 2	35.00 11.29
	合計	男女 257 196	111 126	43.19 64.29	65 38	47 20	37 12	164 70	56.81 35.71
總計		453	237	52.31	46	67	46	266	47.69

而シテ 1 回檢溫ヨリモ 3 日間連続測定ニヨリテ相當ノ有熱者ヲ増加ス、即チ A 校ニ於テ第 1 回測定 450 人中 191 名 42.4% ガ 3 日間連続測定ニヨリテ 454 名ニ對シ 266 名 47.69% ニ増加シ 5% 以上ノ増加率ヲ示セリ。

而シテ 2 日乃至 3 日間持續的ニ 37 度以上ヲ示スモノ 113 名 27.21% ヲ示セリ。

以上ノ成績ヨリ考察スルニ村落小學兒童ニ於テモ相當多數ノ微熱ヲ有スルモノアリ、然モ吉田博士及高田氏(男 70%、女 62%)ノ高率ニ及バザルモ在來ノ報告ニ比較シテ極メテ高率ニシテ特ニ檢溫條件ガ類似セル名古屋市ニ於ケル高橋氏等ノ調査 1068 名ニ對スル 22.25% ニ比シ、極

メテ多數ノ微熱兒童ヲ有スルコト明カナリ。

「ツ」反應陽性者ト體溫トノ關係ヲ調査報告セラレタルモノ一ツイテ見ルニ一般ニ「ツ」反應強陽性者ニハ高體溫ヲ有スルトノ意見多シ(宇留野、野村、高橋氏等)。

余モ亦此ノ關係ヲ調査セルガ B、C 二校ハ單ニ 1 回ノ檢溫ニ過ギズ、從ツテ學術上ノ價値少ナキヲ以テ陽性兒最多ク、且連続 3 日間檢溫セル A 校ヲ選ビ其ノ資料ニ供セリ、而シテ A 校陽性者 130 名ナリシモ檢溫時缺席セル兒童アリ、男 59 名、女 67 名、計 126 名一ツキ調査セルモノナリ。

次表ニヨルトキハ陽性者ト陰性者トノ間ニ格段

「ツ」反應陽性兒ト陰性兒トノ有熱比較調査

	陽性	陰性				陽性	陰性		
		3 日間 37°C 以下	1 日 37°C 以上	2 日以上 37°C 以上			3 日間 37°C 以下	1 日 37°C 以上	2 日以上 37°C 以上
男	59	28	19	12	198	83	46	69	
女	67	38	17	12	129	88	21	70	
%	男		32.20	20.34			23.23	34.85	
	女		25.37	17.91			16.28	51.26	

「ツ」反應陽性兒有熱者調査

	人員	⊕			⊕⊕		
		⊕	⊕⊕	⊕⊕⊕	⊕⊕	⊕⊕⊕	⊕⊕⊕⊕
無熱	男女	28 38	7 8	17 24	4 39		
	男女	31 29	7 7	22 18	2 4		
百分比	男女		22.58 24.14	77.42 75.86			

ノ差異ナク有熱兒ハ寧ロ陰性者ニ多シ。野村氏ハ「ツ」反應ト高體溫者トノ間ニハ特ニ密接ナル關係ヲ認メズト云ヘルガ余ノ調査ニ於テモ同様ナル結論ニ到著セリ。

反應ノ強弱ニヨル熱ノ有無ハ上表ニ示サガ如ク強陽性(⊕、⊕⊕)中男兒 77.42%、女兒 75.86% ノ多數有熱兒童ヲ認ム、即チ陰陽性者中ニハ有

熱兒童多シ。

五、調査要旨

昭和8年6月大阪府泉南郡A、B、C三村學童男582名、女兒541名、計1123名ニ就キマント二氏「ツベルクリン」皮内反應ヲ實施セルニ其ノ成績ノ要點次ノ如シ。

(1) 男兒582名中107名、女兒541名中117名21.63%、合計19.95%ノ陽性率ヲ示ス、即チ從來ノ報告ニ比シ比較的低率ナリ。

(2) 工場地タルA校最高率ニシテ男兒268名中61名22.76%、女兒205名中69名33.66%、平均473名中130名27.48%ナリ、純農村タルB校はレニ次ギ男16.36%、女17.35%、平均16.88%ニシテC校最も少ナク平均13.13%ナリ。

(3) 年齢ノ進ムニ從ヒ陽性率モ亦次第ニ増加ス。

(4) 男兒ハ女兒ヨリモ低率ニシテ男兒18.38%女兒21.63%ナリ。

(5) 強陽性者ハ女兒ニ多ク男29.2%、女57.3%ナリ、而シテA校強陽性者中4名21.05%ノ潰瘍形成者ヲ見共ニ家族中ニ結核患者ヲ有ス。

(6) 家族感染ハ不確實ナルモ21.41%ニ證明シ得タリ。

(7) 家庭ノ職業ハ土地ノ狀況ニヨリテ相違アルモ工業最多ク41.96%ヲ示シ、農業商業交通業公務自由業無職業水産業ノ順ニ減少ス。

(8) 家庭ノ生活狀態モ不確實ナリト雖、大體中流以下ノ家庭ノ子女ニ陽性者多シ。

(9) 保育狀態ト陽性者トノ間ニハ何等關係ナシ。

(10) 既往病歴トノ關係ハ陰性陽性共殆ンド同様ニシテ大部分ハ麻疹百日咳ヲ經過セリ。

(11) 吉田幸信博士ノ生徒兒童體力標準表ニヨルトキハ陽性者ニ於テ體重ハ男女共平均値ヨリモ多キモノ多數ヲ占メ以下ノモノ少數ナリ。然ルニ胸圍ハ男女共平均値以下ノモノ多ク以上ノモノ少ナキハ興味アル事實ナリ、從ツテ體重ハ結

核感染トノ間ニ何等ノ關係ヲ認メズ狭胸者ハ特ニ注意ヲ要ス。

(12) 發育ノ概評ハ陽性者ニ於テ男女共乙最多ク丙少數ナリ、從ツテ陽性兒カナラズシモ發育不良兒ニ非ラズ寧ロ良好ナルモノ多シ。

(13) 榮養狀態ハ主觀的觀察ヲ避ケ鶴見、中橋氏法ニヨルトキハ陽性者ニ於テ乙最多ク丙最も少ナシ。又腹壁皮厚モ吉田博士ノ平均値以上ノモノ多シ。

(14) 學科成績ハ男女共陽性者ニ乙最多ク丙甲丁ノ順ナリ、而シテ陽性兒中女兒ハ乙以上ノモノ男兒ニ比シテ多ク丙以下ノ成績不良兒モ亦女兒ニ少ナシ要スルニ男女共陽性者必ズシモ頭腦明晰ナルモノニ非ズ。

(15) 病氣缺席日數ハ陰性者トノ間ニ差異ヲ認メズ從ツテ陽性兒カナラズシモ病弱兒ニ非ラズ。

(16) 村落小學兒童ニモ37度以上ノ微熱ヲ有スルモノ多ク單ニ1回午午前中10分間ノ測定ニヨリテモ1175名中489名41.62%ヲ有ス、而シテ男女間ニ著シキ差異ナシ。

而シテ3日間連續午前中檢温セルニ3日間37度以下453名中237名52.31%ニシテ3日間ヲ通ジテ37度以上ノモノ47.69%ヲ算セリ、假ニ1日ノミノ有熱者ヲ除キテモ尙27.21%ノ有熱兒アリ。

從ツテ學童ノ有熱ヲ決定スルニハ單ニ1回ノ檢温ノミニテハ不可ナリ少ナクトモ數日間ノ測定ヲ要スベク吉田博士ノ如ク二次三の檢温ニヨラバ相當多數ノ有熱兒童ヲ發見シ得可シ。

(17) 微熱者ト「ツ」反應トノ間ニハ特殊ノ關係ナキガ如シ然レドモ強陽性者中ニハ持續的有熱者多シ。

是レヲ要スルニ村落兒童ニ於テモ相當多數ノ「ツ」反應陽性兒アリ、且持續的ニ微熱ヲ有スルモノ多數存在スルヲ以テ兩者共タトヘ何等自覺的症狀ヲ有セザルトハ云ヘ充分監察ノ要有ル可

ク定期身體検査以外是等ノ兒童ニ對シテハ時々精密ナル身體検査ヲ施行シ特ニ活動性ト認ム可キ場合ハ直チニ保護者ニ注意シ早期ニ充分ナル治療ヲ施スコトハ結核豫防對策上必要缺ク可カラザルコトナリト信ズ。

終リニ臨ミ御懇篤ナル御校閲ヲ賜ハリシ大阪帝大教授今村荒男先生ニ對シ謹ミテ感謝ノ意ヲ表シ、尙終始御助力ヲ受ケシ三校々長並ニ職員各位ニ對シ深謝ノ意ヲ表ス。

主要文献

1) 吉田, 理論術式體力測定. 二〇八頁. 2) 吉田, 生徒兒童體力標準表. 3) 吉田, 學校衛生. 第十四卷. 第三號. 4) 伊東, 兒科雜誌. 百二十七號. 5) 吉見, 松田, 十全會雜誌. 第三八卷. 十一號. 6) 松田, 十全會雜誌. 第三八卷. 十一號. 7) 野村, 日本學校衛生. 第二〇卷. 四五五頁以下. 8) 宇留野, 實驗醫報. 第十六年. 第八六號. 9) 岩崎, 結核. 第九卷. 第十一號. 10)

百崎, 學校衛生. 第八卷. 第五號. 11) 鈴木, 學校衛生. 第九卷. 第六號. 12) 栗山, 結核殊ニ肺結核. 六七〇頁. 13) 栗山, 日本學校衛生. 二〇卷. 自七七三頁. 至七八七頁. 14) 高橋外數名, 結核. 第十二卷. 第三號. 15) 高田, 學校衛生. 第十四卷. 第七號. 16) 鳴田, 學校衛生. 第十三卷. 第十號. 17) 大阪府統計. 自大正十四年. 至昭和七年.